

施策評価シート(平成29年度)

(基本施策の大綱) 3. 交通拠点性を生かした都市活力の向上

(基本施策) (3)農林業の振興

(評価担当者)

産業建設部長 大澤 哲也

■基本施策が目指す姿

農林業の担い手が、効率的かつ安定した経営を営んでいます。

■関連する分野別計画

亀山市農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想

■成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	H31	H32	H33		
1	新規認定農業者及び認定新規就農者の数	人	-	-	0					10
2	6次産業化や農商連携に取り組む認定農業者数	人	10	H27	10					15
3	利用間伐施業面積	ha	-	-	74					300
4										
5										

■市民アンケート調査

項目	重要度	現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [H32]	市民アンケートの考察
1 農業・林業が盛んに行われている	重要度	0.93			
	満足度	▲ 0.38			
2	重要度				
	満足度				
3	重要度				
	満足度				
4	重要度				
	満足度				
5	重要度				
	満足度				

■総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B まずまず進んでいる	<p>農業においては、農業経営体の育成・確保、農業経営の安定化については、認定農業者や営農組織の支援、災害対策、特産品の消費拡大等、まずまず進捗が図れており、個別判定をB評価とした。高付加価値農業の展開については、特産品のPRIに努めているが、新たな事業展開がみられず、C評価とした。また、林業については、林業事業体の森林施業の集約化・団地化、利用間伐が促進するよう森林経営計画作成推進事業補助金や利用間伐事業等補助金を交付して取り組みを支援したことで、まずまず進捗が図れており、B評価とした。こうした農業・林業それぞれの取り組みにより、農林業の担い手の効率的かつ安定した経営にまずまず近づいていると考えられることから、総合判定をBとした。</p> <p style="text-align: center;">反省点・課題</p> <p>農業においては、新規就農者の確保及び集落営農組織等の継続が課題となっており、平地の水田や茶畑での農用地の利用集積を一層加速させるとともに、中山間地域での集積を促進するための取り組みを推進・検討していく必要がある。また、6次産業化や農商連携、農福連携を進める必要がある。林業においては、森林所有者から林業事業体への森林施業委託は僅かではあるが進んでいるものの、木材価格の低迷や経費の上昇など多くの森林所有者の森林整備に対する意識・関心は失われている。また、森林所有者の中には相続等により不在地主も多く、境界が不明などの理由から林業事業体が森林所有者の森林施業の合意を得るのに時間を要すなど森林施業の集約化・団地化が困難になってきている。</p>

今後の展開方針

農林業における生産性向上と経営の安定化を図るため、継続して集約化や6次産業化・農商連携、農福連携、ブランド化等を促進するとともに、国の施策や農林情勢を見極め、引き続き、担い手農家・営農組織・森林所有者・森林組合等林業事業体など意欲ある農林業者・事業体の育成支援に取り組み、農業においては地産地消、林業においては地域材利用促進を図り、農林業の振興を図る。また、森林環境税(仮称)及び森林環境譲与税(仮称)への対応、新たな森林管理制度(森林経営管理法)への対応を、確実に進める。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向① 農業経営体の育成・確保						
(個別判定)	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できているか】		
B		農業経営体の育成及び確保のため、農業の担い手として中心的な役割を果たす認定農業者の更新認定を7件行った。また、地域農業を支える営農組織の持続的な支援を図るとともに、集団転作に取り組む営農組合等3組織に対し、補助金を交付した。		人・農地プラン作成事業及び団体支援事業により現在認定されている農業者や営農組織の維持を図ることができている。新規就農者のさらなる確保や集落営農組織の発展のための支援といった課題もあるが、農業経営体の育成・確保はまずまず推進できている。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	6075	人・農地プラン作成事業	標	154 / 154	B	B
	6014	団体支援事業(生産調整対策事業)	標	10,800 / 10,704	B	B
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向② 農業経営の安定化						
(個別判定)	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できているか】		
B		経営体育成支援事業として1経営体に対して、農業用機械等の導入支援を行った。また、有害鳥獣による農作物への被害防止を図るため、県と協力して、出前講座や獣害被害のアンケート調査を実施した。さらに、三重県猟友会亀山支部へ有害鳥獣の捕獲を委託するとともに、捕獲檻の貸し出しを行い獣害対策に取り組んだ。		農業用機械等の導入に対する支援を行った1経営体が経営面積を拡大するなど、農地の集約化が図れた。一方で、獣害対策については、さらに促進していく必要があるが、農作物等の被害額は、年々減少しており、農業経営安定化に向けて、まずまず推進が図れている。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	6009-1	有害鳥獣対策事業(防止)	標	10,010 / 10,010	B	B
	6009-2	有害鳥獣対策事業(駆除)	標	7,480 / 5,392	A	B
	6007	一般事業(農業振興事業)	標	7,899 / 7,098	B	B
	6077	農業用施設等整備事業	標	5,043 / 5,043	B	B
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向③ 高付加価値農業の展開						
(個別判定)	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できているか】		
C		新たな地域特産品の発掘・研究、6次産業化の展開、農商連携による商品開発やブランド化、付加価値の向上を図るため、特産品フェアに出展し、亀山茶や梅ジャムなどのPRを行った。また、中山間地域において、ほたるまつりや花蓮まつりなどを通じ、地域の活性化に取り組む団体の支援を行った。		中山間地域活性化事業を通じて、都市住民や地域住民との交流を通じた農業の展開、亀山の特産品を全国的にPRすることによる特産品の消費拡大を進めているが、高付加価値農業の展開は、あまり進んでいない。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	6035	特産振興事業	標	3,206 / 2,926	B	B
	6069	ふれあい農園管理事業	標	870 / 772	B	B
	6052	中山間地域活性化事業	標	750 / 700	B	B
事業以外の取組	内容				活動	成果
	特産品相互取扱協定の締結				A	B

施策の方向④ 林業経営の安定化							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	林業事業体の森林施業の集約化・団地化が図られるよう、2林業事業体に対し森林経営計画作成推進事業補助金を交付した。また利用間伐を促進するため、間伐作業、作業路開設、木材搬出に対する利用間伐事業等補助金を交付した。さらに、地域材を利用した公共建築物の木造化・木質化を推進するため、関の山車会館新築工事の設計に反映した。		評価	林業事業体に対し、国・県の造林補助金への市の上乗せ補助により、森林所有者の長期施業委託が進み、年々僅かではあるが、利用間伐が進んでいる。また地域材による公共建築物への木材利用が進んでおり、林業経営の安定化に向け、推進が図れている。		
							まずまず進んでいる
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17063	林業生産活動支援事業		主	13,520 / 13,520	A	A
	6022	一般事業(林業振興事業)		標	1,186 / 1,185	A	B
事業の取組以外	内容					活動	成果